

福岡市長選挙 2026

公約・マニフェスト 第1弾

福岡は伸びた。
次は、市民の手取りを伸ばす。

市民税 5%減税 (世帯当たり平均年間 9,000 円)

市長年収 800 万円・退職金ゼロ

政治ウラ金完全決別

1 人の子も死なせない福岡

2026 年 9 月 14 日

井上 きよし

Supported by
総理をねらう 河村たかし

第一の約束 市民税 **5%減税**(世帯当たり平均年間約 **9,000 円**)

福岡市が成長して税収が増えたなら、その成果を市民に返します。補助金なら役所が「誰に渡すか」を決める。減税なら、市民自身が自分のお金の使い道を決める。

税収が増えたら、市民に返す。これを福岡市政の新しい原則にします。

第二の約束 市長年収 **800 万円**。4 年ごと 2,995 万円の**退職金をゼロ**に

市長の年収約 2,200 万円を 800 万円にします。現行制度では、市長には 1 期 4 年で 2,995 万 2,000 円(約 2,995 万円)の退職手当が支給される仕組みです。

これを 0 円にします。

政治を高給の「職業」にしない。市民と同じ目線に立つ市長をつくります。

第三の約束 **ウラ金地獄**からの完全決別

～残念だけど福岡は政治ウラ金地獄の震源地～

市民には 1 円単位で税金を求める。それなのに政治家のお金だけ不透明でいいはずがありません。政治資金を徹底公開し、政治資金収支報告書に記載されない金をつくらない。市長・市幹部と業者との関係も徹底して透明化します。

税金は安く。政治は正直に。福岡からウラ金政治と完全に決別します。

～政治非家業化・非長期化への挑戦～

地方政治の給料を市民並みに、またはボランティア化へ。政治を一生の「家業」にしない。

任期制限・世襲制限にも挑戦します。

第四の約束 1 人の子も死なせない福岡 高校入試廃止への挑戦

～子どもを「入試の点数」だけで選別しない～

中学生が勉強する目的は、高校入試に合格することだけではありません。自分は何が好きなのか、どんな仕事をしたいのか、何のために勉強するのか。企業、職人、商店、医療、IT、金融、観光など、本物の仕事に触れる「福岡版キャリアパスウェイ」の充実を進めます。

福岡から国・福岡県に、「高校入試を廃止できないか」という教育改革を提案します。「何点取ったか」ではなく「自分は何をやりたいか」を語れる子どもを育てます。

1 人の子も死なせない福岡。子どもが追い詰められる前に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー制度をさらに充実させ、学校・家庭・地域が支える教育を目指します。

まず全中学校約 70 校に常勤のスクールカウンセラーを配置します。

第五の約束 「補助金をもらえる福岡」から「税金の安い福岡」へ

行政が企業を選び、補助金を配る政治を変えます。福岡で商売する。会社をつくる。人を雇う。その人たちの税負担そのものを軽くする。

日本一、商売しやすい福岡。

東京へ行かなくても世界と勝負できる都市をつくります。

第六の約束 アジアの首都 福岡・博多

福岡空港、博多港、博多駅、天神を一つの巨大な経済エンジンとして考えます。

「東京経由で世界へ」ではない。「福岡から直接、世界へ」。

福岡を日本の西の端ではなく、アジアの首都として育てます。

また、若者が創業する時の負担を軽減し、行政手続きを簡素化。空き店舗・空きオフィスを起業に活用し、大学発ベンチャーを育てます。行政が挑戦する若者を管理するのではなく、挑戦を邪魔しない市役所へ変えます。

福岡に本社を置いたまま世界企業になる。そんな会社が次々と生まれる街をつくります。

第七の約束 高齢者乗車券などによるシニアの外出・健康を応援

高齢者が外へ出る。買い物をする。友人と会う。街を歩く。それ自体が健康づくりであり、福岡の街の活性化です。

70才から利用できる高齢者乗車券の増額だけでなく、買い物バスなどの充実を目指します。

「家にいてもらう福祉」ではなく、「街へ出てもらう福祉」へ転換します。

第八の約束 ストレスのない通勤・通学の実現

人口増加に伴い、福岡市の朝夕の混雑は、特に平日の通勤ラッシュ時に顕著でストレスがたまっており、その解消への取り組みがされています。

都心を中心に高架化されている福岡でも“開かずの踏切”はまだ存在します。

急いでいる時に踏切がずっと開かないほどストレスなものはありません。

市長だからこそできる、国や鉄道会社との交渉により、高架化といった“開かずの踏切”を開ける取り組みを推進していきます。

第九の約束 福岡城を蘇らせる

福岡城の復元的整備を大きな目標にする。文化庁と丁寧に協議し、日本全国に福岡城資料の発見を呼びかけるなど、必要な予算措置を行う。城郭としての国宝第一号・名古屋城の完全復元ともコラボします。

第十の約束 福岡の金を福岡で回す

福岡市民が預けたお金、福岡の企業が稼いだお金、福岡市が集めた税金を、福岡の未来への投資に回します。道路、地下鉄、学校、住宅、防災、新しい産業。国にお願いして許可を待つだけの地方自治から脱却します。

福岡のことは福岡で決める。

本当の地方自治を福岡から始めます。

地方の自由と責任を広げるため、財政法 4 条、地方財政法 5 条の 3 の抜本改正を国に求めています。

成長したからこそ、次へ進む。

人口を増やす政治から、一人ひとりを豊かにする政治へ。

都市を大きくする政治から、市民の手取りを大きくする政治へ。

行政が選んで配る政治から、市民に返して、市民自身が選ぶ政治へ。

福岡・減税革命

政治を豊かにする前に、市民を豊かにする。

福岡は伸びた。

今度は、あなたの手取りを伸ばす。